



Informatica® Mass Ingestion
April 2024

アセットの管理

© 著作権 Informatica LLC 2019, 2024

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica Cloud、Informatica Intelligent Cloud Services、PowerCenter、PowerExchange、および Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2024-05-20

目次

序文	5
Informatica のリソース	5
Informatica マニュアル	5
Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト	5
Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ	5
Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス	6
データ統合のコネクタのドキュメント	6
Informatica ナレッジベース	6
Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center	6
Informatica グローバルカスタマサポート	6
第 1 章 : アセットの管理	7
取り込みタスクの編集	7
プロジェクト、フォルダ、およびタスクのコピー	8
フォルダとタスクの移動	8
プロジェクトとフォルダの名前の変更	9
データベース統合タスクの名前の変更	9
ファイル取り込みタスクの名前の変更	10
ストリーミング統合タスクの名前の変更	10
プロジェクト、フォルダ、およびタスクの削除	10
タグ	11
タグの作成	12
取り込みタスクへのタグの割り当て	13
タグの編集と削除	14
アセット依存関係	14
取り込みタスクでのユーザー権限の構成	15
アセットの移行	16
アセットの移行要件	16
依存オブジェクト	17
スケジュール	17
アセットのエクスポート	18
アセットのインポート	20
インポート後のタスク	24
ソース管理	24
ソース管理のアクション	25
ソース管理と Git リポジトリ	25
リポジトリアクセスの設定	26
プロジェクトレベルのリポジトリ	26
ソース管理のプル	27
コミットタグ	28

オブジェクトのチェックアウトおよびチェックイン.....	29
オブジェクトの削除.....	30
以前のバージョンに戻す.....	30
チェックアウトの取り消し.....	30
オブジェクトのリンク解除.....	31
複数のオブジェクトの操作.....	31
[エクスプローラ] ページのソース管理カラムの表示.....	32
ソース管理のベストプラクティス.....	32
索引.....	34

序文

アセットの管理を使用してプロジェクト、フォルダ、およびデータベース統合タスクおよびストリーミング統合タスクなどの一括取り込みの管理方法を学んでください。アセット権限の構成方法やアセットバージョンの管理方法のほか、アセットのタグ付け、移行の方法を学んでください。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト (<http://www.informatica.com/cloud>) にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration>

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers>

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

<https://marketplace.informatica.com/>

データ統合のコネクタのドキュメント

データ統合のコネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center (<https://www.informatica.com/trust-center.html>) にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

サブスクライブするには、[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページで **【サブスクライブして更新】** をクリックします。電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィード、またはこの 4 つの任意に組み合わせとして送信される通知を受信するという選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルサポートセンターには、Informatica Network または電話でお問い合わせください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを検索するには、Informatica Intelligent Cloud Services のヘルプメニューで **【サポートにお問い合わせください】** をクリックして、**Cloud Support** ページに移動します。**Cloud Support** ページには、システムステータス情報とコミュニティディスカッションが記載されています。追加のリソースを検索する場合や電子メールで Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせる場合は、Informatica Network にログインし、**【サポートが必要な場合】** をクリックしてください。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。

第 1 章

アセットの管理

プロジェクト、フォルダ、取り込みタスクなどの一括取り込みアセットを【参照】ページから管理できます。
ユーザーのロールと権限に応じて、次の管理タスクを実行できます。

- 取り込みタスクを編集する。
- プロジェクト、フォルダ、および取り込みタスクをコピーする。
- フォルダと取り込みタスクを移動する。
- プロジェクト、フォルダ、および取り込みタスクの名前を変更する。
- プロジェクト、フォルダ、および取り込みタスクを削除する。
- タグを適用して、【参照】ページでアセットをフィルタリングできるようにする。
- プロジェクト、フォルダ、またはアセットの権限を構成する。
- ソース管理を使用して、プロジェクト、フォルダ、およびタスクのバージョンを管理する。
- 組織間でアセットを移行する。

取り込みタスクの編集

【参照】ページから取り込みタスクを編集できます。

1. 一括取り込みで【参照】ページを開きます。
2. プロジェクトのリストが表示されている場合は、編集する取り込みタスクを含むプロジェクトまたはプロジェクトフォルダを選択します。
3. タスクのリストで、編集する取り込みタスクの行を選択します。
4. 選択した行の【アクション】メニューで、【編集】をクリックします。
タスクウィザードの【定義】ページが編集モードで表示されます。
5. 【定義】、【ソース】、【ターゲット】、【ランタイムオプション】ページで使用可能なフィールドを編集します。

データベース統合タスクでは、次の考慮事項が適用されます。

- 編集可能なプロパティを編集してから、関連するジョブを再デプロイできます。使用できない接続またはプロパティを編集する必要がある場合は、最初に関連するジョブをデプロイ解除します。次に、タスクを編集し、タスクを再度デプロイして、新しいジョブインスタンスを作成します。

- デプロイされたタスクの名前を変更しても、関連付けられたジョブ名は元のタスク名と同じままです。ジョブ名を更新されたタスク名と一致させる場合は、ジョブをデプロイ解除してから、タスクを再度デプロイして、一致する名前を持つ新しいジョブを生成します。
- デプロイされたデータベース取り込みタスクのターゲットテーブルの名前を変更するためのルールを変更すると、関連するジョブが新しいターゲットテーブルを作成し、これらのテーブルへのデータの初期ロードを実行します。ジョブが初期ロードと増分ロードを組み合わせたものである場合、初期ロードが完了した後、ジョブはデータ変更のターゲットへのプロパゲートを開始します。

注: データベース統合ジョブは、古い名前変更ルールに基づいて元のターゲットテーブルを削除または切り捨てることはありません。

6. 完了したら、**【保存】** をクリックします。

プロジェクト、フォルダ、およびタスクのコピー

【参照】 ページでは、プロジェクト、フォルダ、およびタスクをコピーできます。テンプレートとして使用するプロジェクトをコピーすることも、バックアップコピーを作成することもできます。

プロジェクトをコピーすると、新しいプロジェクトには、元のプロジェクトにあったすべてのフォルダとタスクが含まれます。同様に、フォルダをコピーすると、新しいフォルダには、元のフォルダにあったすべてのタスクが含まれます。

タスクが存在するフォルダ内のタスクをコピーする場合、両方のタスクを保持するか、または操作をキャンセルするオプションがあります。同じ名前のタスクが含まれている別のフォルダにタスクをコピーする場合、両方のタスクを保持するか、フォルダ内のタスクを上書きするか、または操作をキャンセルするオプションがあります。タスクを両方とも保持することを選択すると、Informatica Intelligent Cloud Services によって、「コピー x」（x はシーケンシャルなコピー番号）を付加した新しいタスク名が付けられます。

注: 重複するタスクとの名前の競合を避けるには、「コピー x」接尾辞の付いたアセットの名前を変更します。

1. **【参照】** ページで、コピーするオブジェクトに移動します。
2. アセットのリストで、コピーするオブジェクトの 1 つ以上の行を選択します。次に、次のいずれかのアクションを実行します。
 - 単一のアセット行を選択した場合は、その行の **【アクション】** メニューで、**【コピー先】** をクリックします。または、行を右クリックして、**【コピー先】** をクリックします。
 - 複数のアセット行を選択した場合は、ハイライト表示された行を右クリックし、**【コピー先】** をクリックしてすべてのアセットをコピーします。
3. 新しい場所を参照し、**【選択】** をクリックします。

フォルダとタスクの移動

フォルダとタスクは、**【参照】** ページで移動できます。

1. **【参照】** ページで、移動するフォルダまたはタスクに移動します。
2. アセットのリストで、コピーする取り込みタスクまたはフォルダの 1 つ以上の行を選択します。次に、次のいずれかのアクションを実行します。

- 単一の行を選択した場合は、その行の [アクション] メニューで、[移動先] をクリックします。または、行を右クリックして、[移動先] をクリックします。
 - 複数の行を選択した場合は、ハイライト表示された行を右クリックし、[移動先] をクリックしてすべてのアセットをコピーします。
3. 新しい場所を参照し、[選択] をクリックします。

プロジェクトとフォルダの名前の変更

プロジェクトとフォルダの名前を変更できます。

次の文字は使用できません。

? ' | { } " ^ & [] / \

これらの文字を、プロジェクト、アセット、タグ名に使用しないでください。

1. [参照] ページで、名前を変更するプロジェクトまたはフォルダに移動します。
2. プロジェクトまたはフォルダを含む行で、[アクション] をクリックし、[プロパティ] を選択します。
3. 新しい名前を入力し、[保存] をクリックします。
名前に特殊文字を使用したり、同じフォルダ内の別のオブジェクトと同じ名前を使用したりすることはできません。

データベース統合タスクの名前の変更

データベース統合タスクの名前を変更できます。

次の文字は使用できません。

? ' | { } " ^ & [] / \

これらの文字を、プロジェクト、アセット、タグ名に使用しないでください。

1. [参照] ページで、名前を変更する取り込みタスクの行を選択します。
2. 選択した行の [アクション] メニューで、[編集] をクリックします。
タスクウィザードの [定義] ページが編集モードで表示されます。
3. [名前] フィールドに新しい名前を入力して、[保存] をクリックします。

データベース取り込みタスクの名前を変更すると、タスク名とジョブ名は同期されなくなります。タスク名をジョブ名に対応させる場合は、ジョブをデプロイ解除してから、タスクを再度デプロイしてください。ログ履歴はすべて失われます。

ファイル取り込みタスクの名前の変更

ファイル取り込みタスクの名前を変更できます。

次の文字は使用できません。

? ' | { } " ^ & [] / \

これらの文字を、プロジェクト、アセット、タグ名に使用しないでください。

1. **【参照】** ページで、名前を変更するタスクに移動します。
2. タスクの名前を変更するには、タスクを含む行で **【アクション】** をクリックし、**【名前の変更】** を選択します。
3. 新しい名前を入力し、**【保存】** をクリックします。
名前に特殊文字を使用したり、同じフォルダ内の別のタスクと同じ名前を使用したりすることはできません。

ストリーミング統合タスクの名前の変更

ストリーミング統合タスクの名前を変更できます。

次の文字は使用できません。

? ' | { } " ^ & [] / \

これらの文字を、プロジェクト、アセット、タグ名に使用しないでください。

1. **【参照】** ページで、名前を変更するタスクに移動します。
2. タスクの名前を変更するには、タスクを含む行で **【アクション】** をクリックし、**【名前の変更】** を選択します。
3. 新しい名前を入力し、**【保存】** をクリックします。
名前に特殊文字を使用したり、同じフォルダ内の別のタスクと同じ名前を使用したりすることはできません。

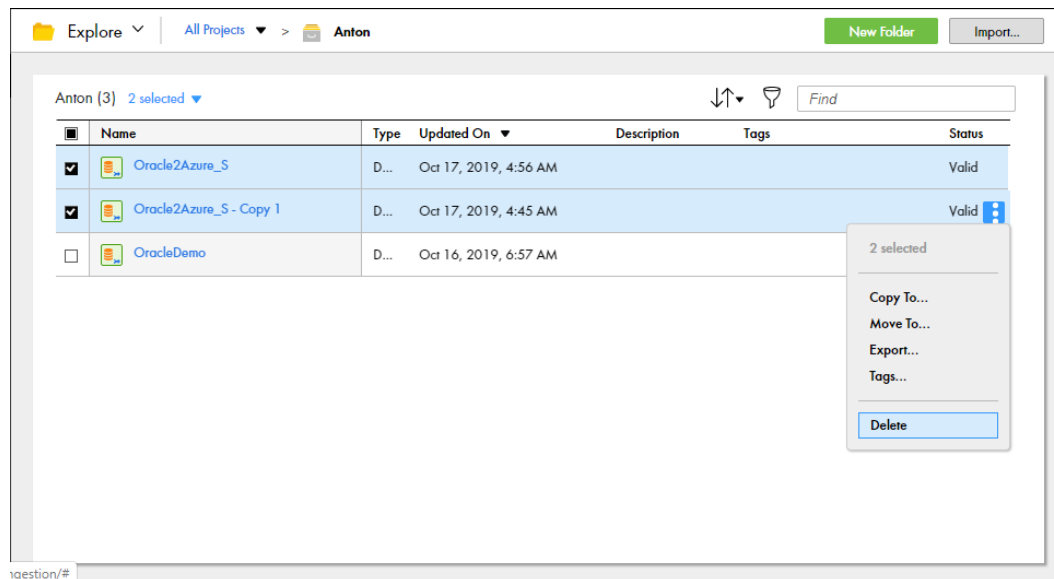
プロジェクト、フォルダ、およびタスクの削除

必要なくなった場合には、プロジェクト、フォルダ、またはタスクを削除できます。ただし、削除する前に、組織内のユーザーがその使用を計画していないことを確認してください。プロジェクト、フォルダ、またはタスクは、削除後に取得することはできません。

次の状況では、アセットを削除できません。

- アセットは、デプロイされたジョブに関連付けられているタスクです。
注: 一括取り込みデータベースで、ジョブをデプロイ解除すると、タスクを削除できます。
- アセットは、タスクを含むフォルダです。

次の図に示すように、**【参照】** ページからプロジェクト、フォルダ、またはタスクを削除します。



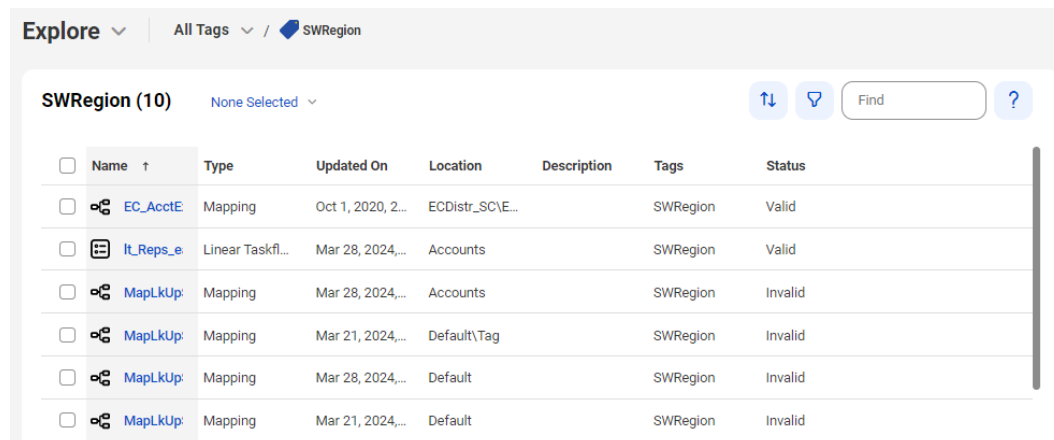
1. プロジェクト、フォルダ、またはタスクを削除するには、**【参照】** ページで、削除するオブジェクトに移動します。
2. アセットのリストで、削除する取り込みタスクまたはフォルダの 1 つ以上の行を選択します。次に、次のいずれかのアクションを実行します。
 - 単一の行を選択した場合は、その行の **【アクション】** メニューで、**【削除】** をクリックします。または、行を右クリックして、**【削除】** をクリックします。
 - 複数の行を選択した場合は、ハイライト表示された行を右クリックし、**【削除】** をクリックしてすべてのオブジェクトを削除します。確認メッセージが表示されます。
3. **【削除】** を再度クリックします。
選択されたオブジェクトは完全に削除されます。再度使用することはできません。

タグ

タグは、アセットをグループ化するために使用可能なアセットプロパティです。**【エクスプローラ】** ページで共通の属性を共有するアセットをフィルタリングするためにタグを作成します。

例えば、組織の各アセットに、そのアセットを管理する支社を識別するタグが含まれます。南西地域の支社が管理するすべてのアセットを表示するには、**【参照】** ページで、タグ別に参照して、**【SWRegion】** タグをクリックします。

次の図は、この設定を示しています。



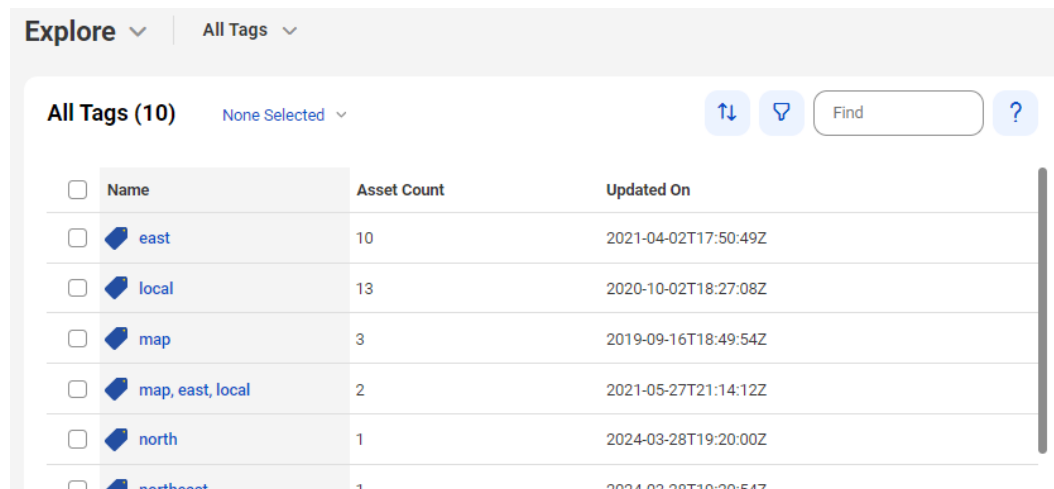
<input type="checkbox"/>	Name ↑	Type	Updated On	Location	Description	Tags	Status
<input type="checkbox"/>	EC_AcctE	Mapping	Oct 1, 2020, 2...	ECDistr_SC\E...		SWRegion	Valid
<input type="checkbox"/>	It_Reps_e	Linear Taskfl...	Mar 28, 2024,...	Accounts		SWRegion	Valid
<input type="checkbox"/>	MapLkUp:	Mapping	Mar 28, 2024,...	Accounts		SWRegion	Invalid
<input type="checkbox"/>	MapLkUp:	Mapping	Mar 21, 2024,...	Default\Tag		SWRegion	Invalid
<input type="checkbox"/>	MapLkUp:	Mapping	Mar 28, 2024,...	Default		SWRegion	Invalid
<input type="checkbox"/>	MapLkUp:	Mapping	Mar 21, 2024,...	Default		SWRegion	Invalid

タグはすべてのアセットタイプに割り当てることができます。1つのアセットには最大64個のタグを設定できます。

次のいずれかの方法を使用して、特定のタグを含むすべてのアセットを検索できます。

- 任意の行で、**【タグ】** カラムのタグ名をクリックします。
- タグを基準に検索し、ページに表示されるタグの一覧で、タグの名前をクリックします。

次の画像は、組織用に作成されたすべてのタグを一覧表示する **【エクスプローラ】** ページを示しています。



<input type="checkbox"/>	Name	Asset Count	Updated On
<input type="checkbox"/>	east	10	2021-04-02T17:50:49Z
<input type="checkbox"/>	local	13	2020-10-02T18:27:08Z
<input type="checkbox"/>	map	3	2019-09-16T18:49:54Z
<input type="checkbox"/>	map, east, local	2	2021-05-27T21:14:12Z
<input type="checkbox"/>	north	1	2024-03-28T19:20:00Z
<input type="checkbox"/>	northeast	1	2024-03-28T19:20:54Z

タグの作成

アセットの **【プロパティ】** ダイアログボックスを使用して、そのアセットのタグを作成して割り当てるか、将来使用できるようにタグを作成します。

アセットに割り当てずに複数のタグを作成するには、次の手順を実行します。

1. **【エクスプローラ】** ページで、アセットタイプを参照します。
2. アセットを含む行で、**【アクション】** をクリックし、**【プロパティ】** を選択します。
3. **【タグ】** フィールドに、作成するタグの名前を入力し、Enter キーを押します。

タグの最大文字数は 255 文字です。

プロジェクト、フォルダ、アセット、またはタグの名前に次の文字を使用することはできません。

? ' | { } " ^ & [] / \

4. 引き続き、他のタグを入力します。タグリストに追加するタグ名ごとに Enter キーを押します。

Properties: m_TrimEmployeeNames_Parameterized-Advanced



Name: m_TrimEmployeeNames_Parameterized-
Advanced

Description:

Tags:

Save

Cancel

5. タグを入力したら、**【タグ】** フィールドからタグを削除して、アセットがタグに関連付けられないようにします。タグはまだ、使用可能なタグの一覧に表示されたままとなります。
6. **【保存】** をクリックします。

取り込みタスクへのタグの割り当て

取り込みタスクを定義した後、タスクにタグを割り当てることができます。これで、**【参照】** ページで 1 つ以上のタグ名に基づいてタスクをフィルタリングできます。

1. 一括取り込みで **【参照】** ページを開きます。
2. プロジェクトのリストが表示されている場合は、1 つ以上のタグを割り当てる取り込みタスクを含むプロジェクトまたはプロジェクトフォルダを選択します。
3. **【すべてのアセット】** または **【すべてのアセット】** > **【取り込みタスクタイプ】** ビューで、取り込みタスクの行を選択します。
4. 選択した行の **【アクション】** メニューで、**【プロパティ】** をクリックします。または、行を右クリックして **【プロパティ】** を選択します。

タスクの **【プロパティ】** ダイアログボックスが表示されます。

5. **【タグ】** リストで、1 つ以上の既存のタグを選択するか、新しいタグ名を入力します。
6. **【保存】** をクリックします。

取り込みタスクにタグを割り当てた後、特定のタグ名を持つすべての取り込みタスクを **【参照】** ページで検索できます。**【参照】** > **【タグ】** をクリックします。次に、タグのリストで、タグ名をクリックして、そのタグのあるタスクのリストを表示します。タスク名をドリルダウンして、タスクの詳細を確認できます。

または、タスクアセットのリストで、**【タグ】** カラムでタグ名をクリックします。

タグの編集と削除

タグは **【エクスプローラ】** ページで編集または削除できます。

タグのプロパティでタグ名または説明を編集します。タグを編集すると、関連するアセットのプロパティも更新されます。例えば、m_sales アセットに NorthWest タグがあり、このタグの名前を NW に変更すると、m_sales アセットプロパティのタグの名前は NW に変更されます。

タグを削除すると、そのタグはアセットプロパティに表示されなくなります。

1. **【エクスプローラ】** ページで、タグを基準にして参照します。
2. タグが含まれている行で、次のいずれかのタスクを実行します。
 - タグを編集するには、**【アクション】** をクリックし、**【編集】** を選択します。変更を行ったら **【保存】** をクリックします。
 - タグを削除するには、**【アクション】** をクリックし、**【編集】** を選択します。

アセット依存関係

アセットのオブジェクトの依存関係を表示できます。アセットに対して特定の操作を実行する前に、オブジェクトの依存関係を確認することをお勧めします。

例えば、別のオブジェクトがアセットに依存している場合、アセットを削除できません。先に依存オブジェクトを削除してから、アセットを削除する必要があります。アセットの依存関係を確認することで、依存オブジェクトを見つけることができます。

【エクスプローラ】 ページでアセットのオブジェクト依存関係を表示できます。アセットのオブジェクト依存関係を表示するには、目的のアセットを含む行で、**【アクション】** をクリックして **【依存関係の表示】** を選択します。**【アセット依存関係】** ページが開き、デフォルトで **【次を使用】** タブが表示されます。

【次を使用】 タブには、選択したアセットが使用するオブジェクトのリストが表示されます。

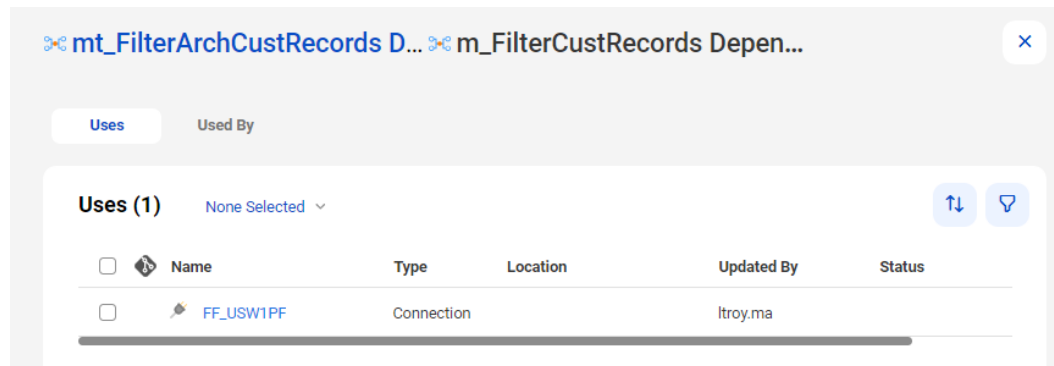
一括取り込みサービスタスクは、接続とランタイム環境を使用します。

注: データベース取り込みタスクを最後に保存したのが一括取り込み Spring 2020 April リリースより以前である場合は、オブジェクトの依存関係を初めて表示する前にタスクを再度保存する必要があります。この操作を 1 回だけ行う必要があります。**【保存】** ボタンが使用できない場合は、タスクの一部を編集します

【次により使用】 タブには、選択したアセットを使用するオブジェクトのリストが表示されます。

最も低いレベルの依存関係にドリルダウンするには、**【依存関係】** ページに表示される各アセットの依存関係をさらに表示します。**【依存関係】** ページの上部にあるパンくずリストには、依存関係のチェーンが表示されます。

次の図は、アセット mt_FilterArchCustRecords が、FF_USW1PF に依存する m_FilterCustRecords に依存していることを示しています。



適切な権限がある場合は、**【依存関係】** ページで、アセットの表示や削除などのアクションを実行できます。アセットを表示または削除するには、目的のアセットを含む行で、**【アクション】** をクリックしてアクションを選択します。

ソース管理されたアセットを操作する場合、最終プル時刻や最後のチェックインなどのソース管理情報を表示できます。ソース管理情報を表示するには、次のソース管理カラムをテーブルに追加します。

- 最終プル時刻
- チェックアウトしたユーザー
- 前回のチェックイン
- Git のハッシュ

取り込みタスクでのユーザー権限の構成

一括取り込みデータベースタスクまたは一括取り込みストリーミングタスクのアセットタイプに対して**権限の設定特権**を持つユーザーロールが割り当てられている場合は、取り込みタスクに対する権限を設定できます。

通常、組織管理者は、ユーザーロールを一括取り込みサービスの特定のユーザーに割り当てます。

1. 一括取り込みで、**【参照】** ページを開き、権限を設定する取り込みタスクの行に移動します。
2. 行の **【アクション】** メニューで、**【権限】** を選択します。

【権限】 ダイアログボックスには、アセットに対する権限が設定されているユーザーとユーザーグループが一覧表示されます。他のユーザーはタスクにアクセスできません。

【権限】 ダイアログボックスにユーザーまたはユーザーグループが一覧表示されない場合は、そのタスクに対して権限が設定されていません。この場合、すべてのユーザーが権限の制限なしにタスクにアクセスできます。

3. ユーザーをユーザーリストに追加し、そのユーザーにタスクに対する権限を付与するには、次の手順を実行します。
 - a. **【ユーザー】** タブで、**【追加】** をクリックします。
 - b. **【ユーザーの追加】** ダイアログボックスで、ユーザーを選択して **【追加】** をクリックします。
 - c. **【権限】** ダイアログボックスで、タスクに対してユーザーに付与する権限を選択します。
 - d. **【保存】** をクリックします。

4. ユーザーグループをグループリストに追加し、タスクに対する権限をそのユーザーグループに付与するには、次の手順を実行します。
 - a. **【グループ】** タブで、**【追加】** をクリックします。
 - b. **【グループの追加】** ダイアログボックスで、グループを選択して **【追加】** をクリックします。
グループが一覧表示されていない場合、ユーザーグループは定義されていません。
 - c. **【権限】** ダイアログボックスで、タスクに対してグループに付与する権限を選択します。
 - d. **【保存】** をクリックします。
5. 一覧表示されたユーザーまたはユーザーグループに設定されている権限を編集するには、**【ユーザー】** または **【グループ】** タブの **【権限】** ダイアログボックスで、ユーザーまたはグループの権限チェックボックスを選択またはクリアします。次に、**【保存】** をクリックします。
6. 1人以上のユーザーまたは1つ以上のユーザーグループに設定したすべての権限を削除するには、**【ユーザー】** または **【グループ】** タブの **【権限】** ダイアログボックスで、すべての権限を削除するユーザーまたはグループを選択します。次に、**【削除】** をクリックして、**【保存】** をクリックします。

アセットの移行

ある組織から別の組織に Informatica Intelligent Cloud Services アセットを移行できます。アセットを移行するには、ソース組織からアセットをエクスポートし、そのアセットをターゲット組織にインポートします。

タスクとその依存オブジェクトをインポートおよびエクスポートできます。

注: オブジェクトの依存関係を表示できないデータベース取り込みタスクをエクスポートする場合は、それらをエクスポートする前に、タスクを再度保存する必要があります。タスクを保存しない場合、ターゲットへのタスクのインポート時に、インポート操作に指定したアセットのオーバーライド（オーバーライド接続や Secure Agent など）が、インポートされたタスクに適用されません。このアクションは、タスクに対して1回だけ実行する必要があります。

単一のアセット、アセットグループ、またはプロジェクト内のすべてのアセットをエクスポートできます。プロジェクトまたはフォルダをエクスポートする場合、ファイル構造はそのまま残るため、ターゲット組織でインポートを実行するときに、元の構造を複製することができます。

サブ組織のアセットをエクスポートまたはインポートするには、サブ組織にログインします。親組織の管理者権限がある場合は、サブ組織に切り替えて、アセットをエクスポートまたはインポートすることもできます。

アセットの移行要件

アセットをある組織から別の組織に移行するには、組織と組織内のユーザーアカウントが特定の要件を満たしている必要があります。

次の要件を満たしていることを確認してください。

- 管理者やデザイナロールなど、インポートとエクスポートの権限を持つロールを使用して、ソース組織とターゲット組織でユーザーアカウントを持ちます。
- ソース組織とターゲット組織は、アセットのインポートとエクスポートに必要なライセンスを保有します。
- ターゲット組織は、インポートするアセットに必要なライセンスを保有します。
- ターゲット組織は、Informatica Intelligent Cloud Services の同じバージョンまたは新しいバージョンを使用します。Informatica Intelligent Cloud Services アップグレード中に組織が同じ POD（Point of Delivery）を使用していない場合、バージョンが一時的に異なる状態となる可能性があります。

依存オブジェクト

依存オブジェクトは他のオブジェクトに必要なアセットです。

エクスポートを設定するときに、エクスポートファイルに依存オブジェクトを含めるか除外するかどうかを選択できます。依存オブジェクトは、エクスポートファイル内かターゲット組織内にあることが必要です。そうでない場合、インポートは失敗します。

ターゲット組織に依存オブジェクトが存在しない場合などに、依存オブジェクトを含めることができます。あるいは、ターゲット組織の依存オブジェクトをソース組織の更新されたバージョンに置き換えたい場合に依存オブジェクトを含めることができます。依存オブジェクトを含めるよう選択すると、エクスポートファイルには、そのエクスポートに含まれるすべてのアセットの依存オブジェクトが含まれます。インポートを設定するときに、インポートする依存オブジェクトを選択できます。

アセットの依存オブジェクトがターゲット組織に存在し、置き換えたくない場合は、それらの依存オブジェクトを除外することができます。

注: スケジュールを使用するアセットをエクスポートしても、スケジュールは依存オブジェクトではないためエクスポートされません。

ランタイム環境と接続

ランタイム環境と接続は依存オブジェクトです。

依存オブジェクトを含めるようにエクスポートを設定する場合は、エクスポートファイルでソース接続とランタイム環境を使用するか、ターゲット組織で接続とランタイム環境を選択できます。

依存オブジェクトを除外するようにエクスポートを設定する場合は、アセットに適した接続とランタイム環境がターゲット組織に存在していることを確認してください。依存関係のある接続またはランタイム環境がターゲット組織に存在しない場合、インポート操作中に、ターゲット組織の接続またはランタイム環境を選択する必要があります。

ターゲット組織で接続またはランタイム環境をインポート中に選択する場合は、コネクタのタイプとバージョンが、ソース組織のアセットで使用されているものと同じである必要があります。

ターゲット組織にエクスポートにあるものと同じ名前の接続またはランタイム環境がある場合、Informatica Intelligent Cloud Services はターゲット組織に存在する接続とランタイム環境を使用します。Informatica Intelligent Cloud Services では、ターゲット組織の接続とランタイム環境は上書きされません。

注: エクスポートとインポートには Cloud ホステッドエージェントまたは共有エージェントを含めることはできません。アセットが Cloud ホステッドエージェントまたは共有エージェントを使用している場合、インポート中にアセットに使用するランタイム環境を選択できます。

スケジュール

ある組織から別の組織にスケジュールを移行することができます。スケジュールを使用するアセットを移行する場合は、スケジュールを移行することをお勧めします。

保存済みスケジュールを使用するアセットをエクスポートする場合、スケジュールはエクスポートファイルに含まれません。

スケジュールを移行するには、管理者を使用してソース組織からスケジュールをエクスポートし、スケジュールを使用するサービスを使用してスケジュールをターゲット組織にインポートします。たとえば、データ統合マッピングタスクに使用されるスケジュールを移行するには、管理者を使用してソース組織からスケジュールをエクスポートし、データ統合を使用してターゲット組織にスケジュールをインポートします。

スケジュールのエクスポートの詳細については、管理者ヘルプを参照してください。スケジュールのインポートの詳細については、[「アセットのインポート」 \(ページ 23\)](#)を参照してください。

アセットのエクスポート

アセットをエクスポートする場合、Informatica Intelligent Cloud Services はエクスポート用に選択されたアセットを含むエクスポート ZIP ファイルを作成します。

エクスポートする個別のアセットを選択するか、全体のプロジェクトまたはフォルダを選択できます。プロジェクトまたはフォルダをエクスポートする場合、エクスポートファイルにはプロジェクトまたはフォルダ内のすべてのアセットが含まれます。

アセットをエクスポートするには、次の権限が必要です。






- ユーザーロールにアセットをエクスポートする権限が必要です。
- アセットの読み取り権限が必要です。

注: エクスポートファイルに含めるオブジェクトの数は 1000 以下にすることをお勧めします。

エクスポートファイル



エクスポート.zip ファイルには、複数のサブフォルダとファイルが含まれています。

エクスポートファイルを開くと、次の高レベルの構造が最初に表示されます。

<input type="checkbox"/> Name	Date modified	Type	Size
 Explore	3/11/2020 2:59 PM	File folder	
 SYS	3/11/2020 2:59 PM	File folder	
 ContentsofExportPackage_VProject-1583954369675.csv	3/11/2020 7:20 PM	Microsoft Excel C...	1 KB
 exportMetadata.v2.json	3/11/2020 7:20 PM	JSON File	7 KB
 exportPackage.chksum	3/11/2020 7:20 PM	CHKSUM File	2 KB





Explore フォルダ

Explore フォルダには、エクスポートされた各タスクのメタデータ.dat ファイルが含まれます。プロジェクトをエクスポートする場合、プロジェクトに関するメタデータを含む json ファイルも、プロジェクトフォルダと同じレベルの Explore フォルダに表示されます。次の図は、エクスポートされたプロジェクトの例を示します。

<input type="checkbox"/> Name	Date modified	Type	Size
 VProject	3/11/2020 2:59 PM	File folder	
 VProject.Project.json	3/11/2020 7:20 PM	JSON File	5 KB

注: Explore フォルダの構造は、ソース組織の【エクスプローラ】ページにオブジェクトがどのように表示されるかを反映しています。

プロジェクトフォルダをドリルダウンして、プロジェクトの各タスクのメタデータを含む.dat ファイルを表示します。

<input type="checkbox"/> Name	Date modified	Type	Size
 RPS_SI2.SIDataflow.dat	3/11/2020 7:20 PM	DAT File	2 KB
 vp_ing2_incrementalb.DBMI_TASK.dat	3/11/2020 7:20 PM	DAT File	1 KB
 vp_ing3_combined.DBMI_TASK.dat	3/11/2020 7:20 PM	DAT File	1 KB
 vp_ora2whateverworks.DBMI_TASK.dat	3/11/2020 7:20 PM	DAT File	1 KB

拡張子が.dat ファイル名に追加されており、アセットタイプを示します。次の表に、一括取り込みアセットタイプとそれに関連付けられている拡張子を示します。

アセットタイプ	内線番号
データベース統合タスク	DBMI_TASK
ストリーミング統合タスク	SIDataFlow

SYS フォルダ

SYS フォルダには、関連付けられた接続と Agent グループの.zip ファイルが含まれます。次の図は、SYS フォルダの内容の例を示しています。

Name	Date modified	Type	Size
DEMO-Snowflake.Connection.zip	3/11/2020 7:20 PM	WinRAR ZIP archive	2 KB
GBW1PF0V4FSE.AgentGroup.zip	3/11/2020 7:20 PM	WinRAR ZIP archive	1 KB
mhredhat5.informatica.com.AgentGroup.zip	3/11/2020 7:20 PM	WinRAR ZIP archive	1 KB
MHV19PWXQA01.AgentGroup.zip	3/11/2020 7:20 PM	WinRAR ZIP archive	1 KB
mp_Kafka_jotunheim.Connection.zip	3/11/2020 7:20 PM	WinRAR ZIP archive	2 KB
rao_ora18rh_rh5.Connection.zip	3/11/2020 7:20 PM	WinRAR ZIP archive	3 KB

各.zip ファイルには、アセットの json ファイルとメタデータファイルが含まれます。

CSV ファイル

.csv ファイルにはエクスポートファイルのオブジェクトが一覧表示されます。次の図は、データベース統合タスクとストリーミング統合タスクおよびすべての依存オブジェクトを含む、エクスポートされたプロジェクトの Excel にスプレッドシートとして表示された.csv ファイルの例です。

objectPath	objectName	objectType	id
/SYS	MHV19PWXQA01	AgentGroup	8mGSa2rWTCdjOO7AXzMJyk
/SYS	mhredhat5.informatica.com	AgentGroup	2mrlI3AOINUPh9VlsWXvyQf
/Explore/VProject	vp_ing3_combined	DBMI_TASK	ay6A8Gek5gOcpHKLwmZ4KS
/SYS	rao_ora18rh_rh5	Connection	74Ah0AfpNVOl6D6e0zfgOR
/SYS	DEMO-Snowflake	Connection	7CcpypD9pIFb5ZgTYNZzq8
/Explore/VProject	RPS_SI2	SIDataflow	9mZmsWt8PSOg2mX0eIV6qY
/SYS	mp_Kafka_jotunheim	Connection	9dX4XEp8Swycz6XZRP5CI4
/Explore/VProject	vp_ing2_incrementalb	DBMI_TASK	64mhQOKB78VeJC4mAvARCT
/SYS	GBW1PF0V4FSE	AgentGroup	04OmYZTCxQEaZYfthOMi8v
/Explore	VProject	Project	bihoive8aAafGUdRSNJgw9

アセットのエクスポート

エクスポートでは、1つのアセット、複数のアセット、または1つのプロジェクトを選択できます。

複数のアセットを含めるには、フォルダ内の各アセットを選択するか、すべてのアセットをエクスポートするプロジェクトまたはフォルダを選択します。プロジェクトをエクスポートすると、インポート時にプロジェクト全体をインポートするか、選択したアセットのみをインポートできます。

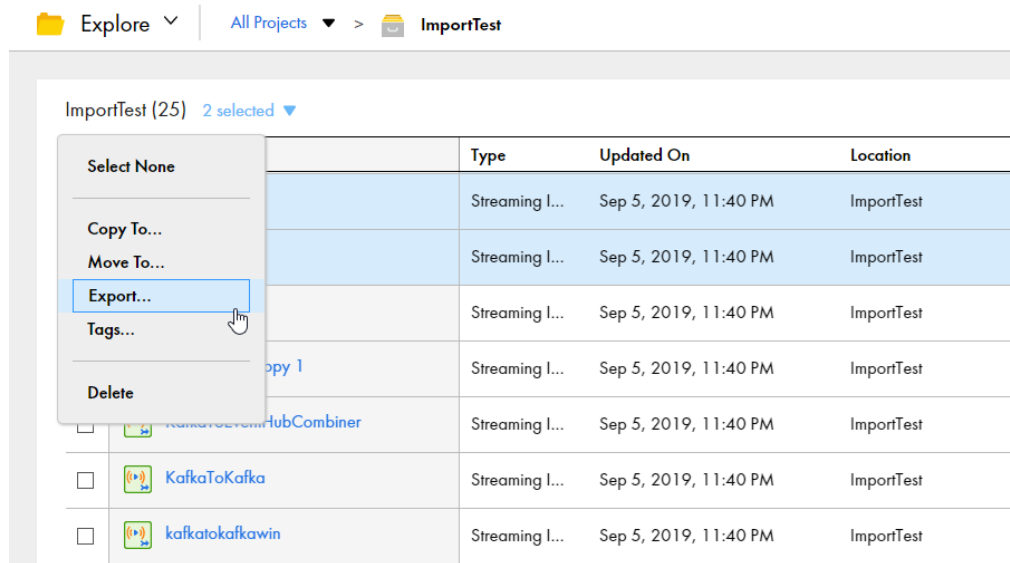
1. ソース組織にログインします。
2. 【参照】 ページで、エクスポートするアセットに移動します。

3. エクスポートするアセットを選択します。

1つのアセットまたはプロジェクトをエクスポートするには、アセットまたはプロジェクトを選択して、**[アクション]** をクリックし、**[エクスポート]** を選択します。

複数のアセットをエクスポートするには、エクスポートする各アセットの左側にあるチェックボックスを選択します。または、エクスポートするアセットが含まれている各プロジェクトまたはフォルダのチェックボックスを選択します。[アクション] メニューから、**[エクスポート]**を選択します。

次の図は、選択メニューで複数のアセットが選択されている様子を示しています。



4. **【アセットのエクスポート】** ページで、ジョブ名を変更するか、デフォルトのままにします。
5. アセットの依存オブジェクトを含めるかどうかを選択します。
6. **【エクスポート】** をクリックします。
7. ジョブの進捗状況を確認するには、ナビゲーションバーから **【マイインポート/エクスポートログ】** を選択し、ページの上にあるメニューから **【エクスポート】** を選択します。ログの名前をクリックして **【ログの詳細】** ページを開きます。

アセットのインポート

エクスポートファイル内のすべてのアセットをインポートしたり、インポートするアセットを選択したりできます。

アセットをインポートする場合、次の情報を指定します。

- インポートするエクスポートファイルのアセットと、それらのインポート先のプロジェクト。
- 名前が競合している場合、ターゲットプロジェクトのアセットをエクスポートファイルのアセットで上書きするか。
- ターゲットプロジェクトのアセットを上書きするときにタグを統合するかどうか。
- インポートしたアセットに使用する接続とランタイム環境。

アセットをインポートするには、次の権限が必要です。

- ユーザーロールにアセットをインポートする権限が必要です。

- アセットを新しいアセットとしてターゲットプロジェクトにインポートする場合、アセットの作成、更新および読み取り権限が必要です。
- ターゲットプロジェクトのアセットを上書きする場合、アセットの更新および読み取り権限が必要です。

注: ターゲットプロジェクトでソースが管理されているアセットを上書きするには、そのアセットをチェックアウトする必要があります。

【アセットのインポート】 ページには、エクスポートファイル内のアセットが一覧表示されます。インポートするアセットを選択し、アセットをインポートするプロジェクトを指定します。デフォルトのプロジェクト（ソースプロジェクトと同じプロジェクト名）を受け入れるか、別のプロジェクトを選択できます。プロジェクトがターゲット組織に存在しない場合、Informatica Intelligent Cloud Services によって作成されます。

アセット名の競合

エクスポートファイルにターゲットプロジェクトのアセットと同じ名前のアセットが含まれる場合、Informatica Intelligent Cloud Services がアセット名の競合をどのように処理するかを指定できます。ターゲットプロジェクトのアセットを上書きするか、ターゲットプロジェクトの既存のアセットを使用するかを選択できます。

インポートを開始する前にインポートでアセット名の競合を処理する方法を確認するために、アセットをインポートする前に**【アセットのインポート】** ページでインポートをテストできます。インポートアクションが各アセットの**【ステータス】** カラムに表示されます。アセットのリストは、アセット名、アセットタイプ、またはステータスでフィルタ処理できます。

次の図は、アセットの一覧と、既存のアセットの上書きが有効になっている場合に実行されるインポートアクションを示したものです。

Start an import job, review the assets from the import file, and resolve any error related to location, connections, or runtime environments.

Select Import File

Filename:

Specify Import Job Details

Define the import behavior when an asset already exists, and provide a name that will be used to identify the import job on the My Jobs page.

Job Name: ☒ Overwrite existing assets, excluding connections and runtime environments

Select Assets

Assets (1) All selected

Name	Dependencies	Type	Location	Description	Status
etstrect1	0	Streaming Inge...	Jyothy		Overwrite existing o...

ターゲット組織にエクスポートファイルにあるものと同じ名前の接続またはランタイム環境がある場合、Data Ingestion はターゲット組織に存在する接続とランタイム環境を使用します。Data Ingestion では、ターゲット組織の接続とランタイム環境は上書きされません。

ランタイム環境と接続の選択

エクスポートファイルに依存オブジェクトが含まれている場合、**【ターゲット接続】** と **【ターゲットランタイム環境】** のフィールドには、デフォルトでエクスポートファイルの接続とランタイム環境が表示されます。デフォルト値を使用するか、別の接続またはランタイム環境を選択することができます。

エクスポートファイルに依存オブジェクトが含まれておらず、エクスポートファイルのアセットによって使用されている接続またはランタイム環境がターゲット組織に存在しない場合は、ターゲット接続またはランタイム環境を選択する必要があります。

ターゲット組織に存在する接続またはランタイム環境を選択する場合は、コネクタのタイプとバージョンが、ソース組織のアセットで使用されているものと同じである必要があります。

アセットタグのインポート

アセットタグはエクスポートファイルに含まれ、アセットとともにターゲットプロジェクトにインポートされます。既存のアセットを上書きする場合、ターゲットプロジェクトのタグをエクスポートファイルのタグと統合するか、またはエクスポートファイルのタグのみを保持するかを選択できます。

新しいアセットをインポートすると、そのタグもターゲットプロジェクトにインポートされます。ターゲットプロジェクト内の既存のアセットを上書きする場合は、タグを統合することを選択できます。タグを統合すると、インポート後に、エクスポートプロジェクトタグとターゲットプロジェクトタグの両方がアセットに割り当てられます。

エクスポートファイル内のすべてのアセットまたは一部のアセットのタグを統合することを選択できます。タグを統合できるのは、ターゲットプロジェクト内の既存のアセットを上書きする場合のみです。

タグを統合することを選択したものの、エクスポートファイルのアセットにはタグがなく、ターゲットプロジェクトのアセットにはタグがある場合、インポート後に、アセットはターゲットプロジェクトのタグを保持します。ターゲットプロジェクトタグを削除するには、[【参照】](#) ページでアセットに移動し、タグを削除します。

次の表は、インポート時に既存のアセットを上書きする場合に、Informatica Intelligent Cloud Services がタグを統合する方法を示しています。

アセット名	エクスポートファイルタグ	ターゲットプロジェクトタグ	タグの統合	インポート後のタグ
Asset_1	Tag_1, Tag_2	Tag_3	はい	Tag_1, Tag_2, Tag_3
Asset_2	Tag_1, Tag_2	Tag_4, Tag_5	×	Tag_1, Tag_2
Asset_3	Tag_1, Tag_2	-	○	Tag_1, Tag_2
Asset_4	-	Tag_5, Tag_6	はい	Tag_5, Tag_6
Asset_5	-	Tag_5, Tag_6	×	Tag_5, Tag_6

パーシステント値を持つアセットのインポート

入出力パラメータまたはシーケンスジェネレータを含む共有シーケンスまたはマッピングタスクをインポートする場合、パーシステント値を保持、リセット、または上書きすることを選択できます。

パーシステント値に対して実行できるアクションは、アセットがターゲットプロジェクトに存在するかどうかや、既存のアセットを上書きすることを選択したかどうかによって異なります。

次の表では、新しいアセットをインポートする場合、または既存のアセットを上書きしないことを選択した場合に実行できるアクションについて説明します。

設定	説明
デフォルト値に戻す	デフォルト。Informatica Intelligent Cloud Services は、デフォルトの入出力パラメータ値と初期シーケンスジェネレータ値を使用して、ターゲットの場所に新しいアセットを作成します。
パースistent値の保持	Informatica Intelligent Cloud Services は、パースistent入出力パラメータ値とシーケンスジェネレータ値を使用して新しいアセットを作成します。

次の表では、既存のアセットを上書きする場合に実行できるアクションについて説明します。

設定	説明
ターゲットのパースistent値の保持	デフォルト。Informatica Intelligent Cloud Services は、エクスポートファイルからの値を無視し、ターゲットプロジェクトに保持されている値を維持します。
パースistent値をデフォルト値にリセット	Informatica Intelligent Cloud Services は、パースistent値をデフォルトの入出力パラメータ値と初期シーケンスジェネレータ値にリセットします。
ターゲットのパースistent値をソース値で上書き	Informatica Intelligent Cloud Services は、ターゲットの値をエクスポートファイルのパースistent値で上書きします。

アセットのインポート

アセットのインポートは、Informatica Intelligent Cloud Services エクスポートファイルから行います。

1. ターゲット組織へのログイン
2. **[エクスプローラ]** ページで、**[すべてのプロジェクト]** に移動し、**[インポート]** をクリックします。
3. **[アセットのインポート]** ページでエクスポートファイルに移動して**[開く]** をクリックするか、Windows の**[ダウンロード]** フォルダから zip ファイルをドラッグします。
[アセットのインポート] ページにはファイル内のアセットが一覧表示されます。
4. 必要に応じて、インポートジョブ名を変更します。
5. 既存のアセットをインポートのアセットで上書きするかどうかを選択します。
 - 既存のアセットを上書きするよう選択すると、アセットがターゲットプロジェクト内のアセットと同じ名前だった場合、そのアセットによってターゲットプロジェクト内の既存のアセットが置き換えられます。
 - このオプションを選択しないと、同じ名前のアセットがターゲットプロジェクト内に存在する場合、アセットはインポートされません。
6. インポートするアセットを選択します。
エクスポートファイルにプロジェクトが含まれ、プロジェクト全体をインポートする場合、すべてのアセットを選択します。Informatica Intelligent Cloud Services は、ターゲット組織にプロジェクトを作成します。
7. ターゲットプロジェクトを選択するか、デフォルトを受け入れます。
8. **[テスト]** をクリックして、インポートの潜在的な結果を確認します。
[アセットの選択] 領域で、各アセットのステータスには、ファイルのインポート時にサービスが実行するアクションが表示されます。

9. 必要に応じて、選択を修正して、テスト結果の問題を解決します。
10. **【インポート】** をクリックします。
[マイインポート/エクスポートログ] ページの **【インポート】** タブでインポートの進行状況を確認できます。インポート処理が完了すると、**【通知】** にメッセージが表示されます。メッセージ内のリンクをクリックして [ログの詳細] ページを開き、インポートの結果を確認します。

インポート後のタスク

移行プロセスを完了するには、インポートしたアセットタイプに基づいて特定のタスクを実行する必要があります。

アセットのインポート後、次のタスクを実行します。

- 接続パスワードとセキュリティトークンを設定します。セキュリティ上の理由から、Informatica Intelligent Cloud Services にはインポートの接続パスワードとセキュリティトークンが含まれていません。

ソース管理

Informatica Intelligent Cloud Services で GitHub、Azure DevOps、または Bitbucket Git ソース管理リポジトリを使用することにより、プロジェクト、フォルダ、アセットなどの Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトに加えた変更を管理および追跡できます。

ソース管理を使用すると、**【エクスプローラ】** ページに表示される Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトのバージョン管理を実現できます（データ統合バンドルを除く）。ランタイム環境や接続など、**【エクスプローラ】** ページに表示されないオブジェクトに対してソース管理を適用することはできません。ソース管理リポジトリ構造は、組織内の構造をミラーリングしており、**【エクスプローラ】** が最上位ディレクトリです。

ユーザーがソース管理対象オブジェクトでアクションを実行するたびに、Informatica Intelligent Cloud Services はアクションのログを記録します。ソース管理ログは、モニタサービスで表示できます。詳細については、Monitor ヘルプにある、**ソース管理ログの監視**に関する説明を参照してください。

ソース管理を使用するには、次の前提条件を満たす必要があります。

- ソース管理を使用するための適切な Informatica Intelligent Cloud Services ライセンスを組織が所有している。
- 組織の管理者によって、ソース管理リポジトリと Informatica Intelligent Cloud Services 組織との間の接続が構成されている。
- ユーザーロールに、Informatica Intelligent Cloud Services のソース管理機能を使用するための特権があります。
- ソース管理リポジトリのユーザー資格情報が Informatica Intelligent Cloud Services に入力されている。

Git ソース管理リポジトリと Informatica Intelligent Cloud Services との間の接続を構成する方法については、Administrator のヘルプを参照してください。

注: Informatica Intelligent Cloud Services でソース管理リポジトリを使用する場合は、プロジェクトやフォルダなどのコンテナに含めるオブジェクトは 1000 個以内にすることをお勧めします。

ソース管理のアクション

プロジェクト、フォルダ、アセットなどのソース管理オブジェクトに対しては、次のアクションを実行できます。

オブジェクトをプルする。

オブジェクトをプルして、組織に追加するか、ソース管理リポジトリにあるバージョンでプロジェクトを更新します。

オブジェクトをチェックアウトする。

処理するオブジェクトをチェックアウトします。オブジェクトをチェックアウトすると、そのオブジェクトはロックされるため、他のユーザーはそのオブジェクトを変更できません。

オブジェクトをチェックインする。

オブジェクトをチェックインして、オブジェクトをソース管理リポジトリに追加するか、オブジェクトの最新バージョンでソース管理リポジトリを更新します。オブジェクトをチェックインすると、ロックは解除されます。

オブジェクトを削除する。

組織とソース管理リポジトリからオブジェクトを削除します。オブジェクトを削除するには、事前にオブジェクトをチェックアウトしておく必要があります。

オブジェクトのバージョンをリストアする。

オブジェクトを以前のバージョンにリストアします。

チェックアウトを取り消します。

オブジェクトに対して加えた変更を保存しない場合は、チェックアウトを取り消します。チェックアウトを取り消すと、オブジェクトは最後のソース管理バージョンに戻ります。

オブジェクトをリンク解除する。

組織内のオブジェクトをソース管理リポジトリ内のオブジェクトと同期する必要がなくなった場合は、オブジェクトをリンク解除します。

注: ソース管理リポジトリを更新する権限がない組織もあります。所属する組織がリポジトリを更新できない場合は、プルアクションを実行して、指定したバージョンの Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトを取得します。ただし、チェックアウトやチェックインなどの他のソース管理アクションをオブジェクトに対して実行することはできません。

オブジェクトをチェックアウト、プル、またはリンク解除したり、チェックアウトを取り消すには、そのオブジェクトに対する更新権限が必要です。

ソース管理と Git リポジトリ

主に Git ソース管理リポジトリを直接操作している場合、ソース管理を Informatica Intelligent Cloud Services で使用するときと Git で直接操作するときで若干の違いがあることに気付くはずですが。

次のような違いがあります。

- Informatica Intelligent Cloud Services のプルアクションは、Git のプルコマンドと同じです。ただし、Informatica Intelligent Cloud Services のプルでは、変更を統合できません。
- Informatica Intelligent Cloud Services のチェックアウトアクションはオブジェクトをロックするため、他のユーザーがそのオブジェクトをチェックアウトしたり変更することはできません。
- Informatica Intelligent Cloud Services のチェックインアクションは、Git の commit コマンドと push コマンドを組み合わせたものと同じです。チェックインを使用すると、Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトがソース管理リポジトリに追加され、変更内容がリポジトリにコミットされます。

リポジトリアクセスの設定

ソース管理されているオブジェクトを操作するには、Informatica Intelligent Cloud Services でリポジトリ資格情報を指定します。

資格情報には、使用するリポジトリサービスに応じて、個人用アクセストークンまたはアプリパスワードを含めることができます。

管理者が組織のリポジトリを OAuth アクセス用に設定している場合は、個人用アクセストークンまたはアプリパスワードを提供する代わりに OAuth アクセスを有効にすることができます。

個人用アクセストークンとアプリパスワードは、プライベートリポジトリを完全に制御できるように設定する必要があります。個人用アクセストークンの生成については、GitHub または Azure DevOps Git のヘルプを参照してください。アプリパスワードの生成については、Bitbucket のヘルプを参照してください。

Informatica Intelligent Cloud Services で次のステップを実行して、リポジトリへのアクセスを設定します。

1. Informatica Intelligent Cloud Services ウィンドウ右上隅にある **【ユーザー】** アイコンをクリックして、**【設定】** を選択します。
2. 次のいずれかの手順に従います。
 - リポジトリの資格情報を入力します。
 - リポジトリへの OAuth アクセスを有効にします。GitHub リポジトリと Azure DevOps Git リポジトリの場合、アクセスがまだ承認されていない場合は、Git アクセスアプリが表示されます。Informatica Intelligent Cloud Services へのアクセスを承認する場合に選択します。
3. **【保存】** をクリックします。

プロジェクトレベルのリポジトリ

カスタムリポジトリソース管理設定特権を持つロールが割り当てられている場合は、組織用に設定されたグローバルソース管理リポジトリを使用する代わりに、プロジェクトレベルで使用するソース管理リポジトリを指定できます。

デフォルトでは、プロジェクトまたはフォルダに対してソース管理アクションを実行すると、そのアクションは組織の管理者によって設定されたグローバルソース管理リポジトリを使用します。組織の管理者がプロジェクトレベルのリポジトリを有効にしている場合、プロジェクトをグローバルリポジトリ以外のリポジトリにリンクできます。

プロジェクトレベルのリポジトリを使用する場合は、**【参照】** ページに必ず **【リポジトリ URL】** カラムと **【リポジトリブランチ】** カラムを追加してください。

注: プロジェクトをカスタムリポジトリにリンクする前に、プロジェクトにアクセスする必要がある他のユーザーがそのリポジトリにアクセスできることを確認してください。

ソース管理リポジトリへのプロジェクトのリンク

グローバルリポジトリ以外のソース管理リポジトリにプロジェクトをリンクできます。

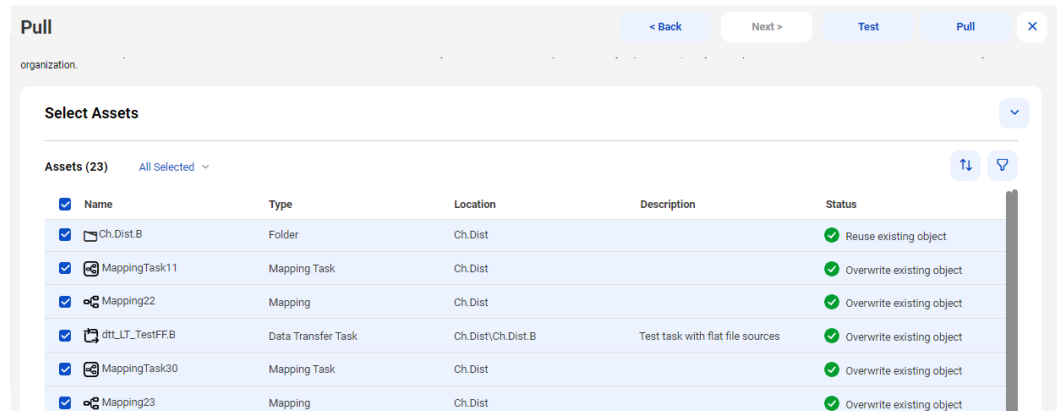
1. **【参照】** ページのプロジェクトを含む行で、**【アクション】** をクリックし、**【ソース管理プロパティ】** を選択します。
2. 使用する Git リポジトリの URL とブランチ名を入力し、**【保存】** をクリックします。
3. もう一度 **【保存】** をクリックして、グローバルリポジトリ以外のリポジトリを使用することを確認します。
【保存】 をクリックすると、リポジトリへのアクセス権を持つユーザのみがプロジェクトをチェックアウトしてコミットできます。

ソース管理のプル

オブジェクトをプルして、組織に追加するか、ソース管理リポジトリにあるバージョンで組織内のオブジェクトのバージョンを置き換えます。別のユーザーがチェックアウトしていないプロジェクト、フォルダ、または個々のオブジェクトをプルできます。

プルを実行する前に、プルを行った場合の結果を確認することができます。アクションをキャンセルしたり、プル操作から除外するオブジェクトを選択することもできます。

次の図は、**【ステータス】** カラムに可能性がある結果を表示したプレビューページを示しています。



The screenshot shows a 'Pull' window with a table of assets. The table has columns for Name, Type, Location, Description, and Status. All assets are marked as 'All Selected' and have a status of 'Reuse existing object' or 'Overwrite existing object'.

Name	Type	Location	Description	Status
Ch.Dist.B	Folder	Ch.Dist		Reuse existing object
MappingTask11	Mapping Task	Ch.Dist		Overwrite existing object
Mapping22	Mapping	Ch.Dist		Overwrite existing object
dt.LT_TestFFB	Data Transfer Task	Ch.Dist(Ch.Dist.B)	Test task with flat file sources	Overwrite existing object
MappingTask30	Mapping Task	Ch.Dist		Overwrite existing object
Mapping23	Mapping	Ch.Dist		Overwrite existing object

プルをテストして、エラーが発生していないかどうかを確認することもできます。エラーが表示された場合は、オブジェクトをプル対象から除外したり、ページを閉じてプルをキャンセルできます。

依存オブジェクトはプル操作の対象になりません。たとえば、データ統合で、保存済みクエリを使用するマッピングをプルした場合、保存済みクエリはプルに含まれません。

組織内のプル対象オブジェクトの状態は、プルを行っても変更されません。例えば、プルされる前にチェックアウトされていたオブジェクトは、プル操作の後もチェックアウト状態のままです。

以下の規則とガイドラインに従う必要があります。

- 接続またはランタイム環境を使用するオブジェクトをプルする場合、プルを実行する前に、組織内に接続またはランタイム環境を含める必要があります。接続またはランタイム環境を使用するオブジェクトを選択する場合は、テストページでランタイム環境と接続を選択します。
- Informatica Intelligent Cloud Services では、オブジェクト名の太文字と小文字は区別されません。そのため、同じ名前で大文字と小文字が異なる複数のアセットを含んだプロジェクトをプルすることはできません。例えば、「sales」という名前のアセットと「SALES」という名前のアセットを含むプロジェクトをプルしようすると、プロジェクトまたはフォルダに同じ名前の複数のアセットを含めることができないため、エラーが発生します。
- 組織がソース管理リポジトリを更新できるかどうかに関係なく、オブジェクトをプルできます。

プロジェクトとフォルダのプル

プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトをプルすることも、特定のコミットハッシュで変更されたオブジェクトのみをプルすることもできます。

プルするオブジェクトのバージョンを指定します。選択できるオブジェクトのバージョンは、Informatica Intelligent Cloud Services でのオブジェクトの現在の場所に基づいています。たとえば、m_customers オブジェクトのバージョン 5 をチェックアウトして、NewCustomers というプロジェクトに移動するとします。オブジェクトをプルすると、使用可能なバージョンには、以前の場所からのオブジェクトのバージョンが含まれません。

プロジェクトまたはフォルダをプルする場合、そのプルは、ソース管理されていないプロジェクトまたはフォルダ内のオブジェクトには影響しません。

プルにより、組織内のプロジェクトまたはフォルダが更新され、リポジトリ内のプロジェクトまたはフォルダの選択したバージョンと同一になります。たとえば、プロジェクトの以前のバージョンをプルする際、組織内のそのプロジェクトに後のバージョンで追加されたオブジェクトが含まれている場合、プルによってそのオブジェクトは削除されます。

オブジェクトのプル

プルアクションを使用して、組織をソース管理リポジトリのオブジェクトで更新します。単一のアセット、プロジェクト、またはフォルダをプルできます。プロジェクトまたはフォルダをプルする場合、プルに含めたくないプロジェクトまたはフォルダ内のアセットを除外できます。

1. グローバルリポジトリからプロジェクトをプルするには、**[グローバル Git からプル]** をクリックします。プルするオブジェクトを含むプロジェクトを選択し、**[次へ]** をクリックします。
2. プロジェクトレベルで設定されているリポジトリまたはブランチからプロジェクトをプルするには、**[参照]** ページで、アセットまたはフォルダを選択します。**[アクション]** をクリックし、**[プル]** を選択します。

注: 一度に複数のプロジェクトをプルすることはできません。

3. 単一のアセットまたはフォルダをプルするには、**[参照]** ページで、対象のアセットまたはフォルダを選択します。**[アクション]** をクリックし、**[プル]** を選択します。
4. プロジェクトまたはフォルダに対して、使用するプル方法を選択し、**[次へ]** をクリックします。以下のいずれかの方式を使用できます。
 - コミットハッシュ内のすべてのアセットをプル。
 - コミットハッシュ内の変更されたアセットのみをプル。
5. プルする Git ハッシュを選択し、**[次へ]** をクリックします。
6. アセットのリストを確認します。プルに含めたくないアセットのチェックボックスをオフにすることができます。デフォルトでは、すべてのアセットが選択されています。
7. 各アセットの **[ステータス]** カラムのアクションを確認します。これらのアクションは、プルアクションの実行時に発生します。
8. 必要に応じて、**[テスト]** をクリックし、プルアクションの結果としてエラーが発生するかどうかを確認します。
9. **[プル]** をクリックします。

プルアクションにより、このアクションの詳細を示すログが生成されます。ログは、**[監視]** の **[ソース管理ログ]** ページで確認できます。

コミットタグ

アセットをソース管理リポジトリにチェックインするときに、コミットタグを含めることができます。タグは、Git リポジトリに注釈付きタグとして表示されます。

コミットタグを含めて、デプロイの準備ができているチェックイン内の資産をマークすることができます。コミットタグを追加すると、そのタグはコミット内の各アセットに適用されます。コミットごとに1つのタグを追加でき、タグは一意である必要があります。

アセットをプルすると、Informatica Intelligent Cloud Services の **[プル]** ページの **[タグ]** カラムにコミットタグが表示されます。

注: リポジトリにあるコミットタグの数によっては、プル操作に時間がかかる場合があります。

オブジェクトのチェックアウトおよびチェックイン

オブジェクトをチェックアウトして、変更を加えることができます。ソース管理リポジトリに変更を適用して更新する場合は、オブジェクトをチェックインします。オブジェクトをチェックインすることで、それらをソース管理リポジトリに追加することもできます。

オブジェクトをチェックアウトすると、そのオブジェクトはロックされるため、他のユーザーはそのオブジェクトを変更できません。オブジェクトをチェックインする際、オブジェクトの新しいバージョンがソース管理リポジトリに作成されます。

ソース管理されていないフォルダまたはプロジェクトにあるオブジェクトをチェックインすると、そのフォルダまたはプロジェクトはソース管理されます。アセットは、プロジェクトやフォルダなどのコンテナに含まれているのでないかぎり、ソース管理リポジトリには配置できません。

ソース管理を使用している組織にアセットをインポートする場合は、上書きできるようにアセットをチェックアウトする必要があります。

注: チェックインのサイズは 50MB を超えることはできません。

オブジェクトのチェックアウト

オブジェクトをチェックアウトすると、そのオブジェクトはロックされるため、変更を加えている間は他のユーザーによる更新は行えません。

チェックアウトは、個々のオブジェクトや複数のオブジェクトに対して行うことができるほか、プロジェクトまたはフォルダをチェックアウトして、それらのプロジェクトやフォルダに含まれるすべてのオブジェクトをチェックアウトすることもできます。

オブジェクトをチェックアウトする前に、プルを実行して、オブジェクトの最新バージョンを更新するようにします。プルアクションの詳細については、[「ソース管理のプル」\(ページ 27\)](#)を参照してください。

1. **【エクスプローラ】** ページで、チェックアウトするオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【チェックアウト】** を選択します。
3. チェックアウトに複数のオブジェクトが含まれる場合は、プレビューページの **【ステータス】** カラムで結果を確認します。オブジェクトを除外する場合は、そのオブジェクトの名前の横にあるチェックボックスをオフにします。
4. **【チェックアウト】** をクリックします。

オブジェクトのチェックイン

オブジェクトをチェックインして、オブジェクトをソース管理リポジトリに追加したり、組織内のオブジェクトの最新バージョンでソース管理リポジトリを更新できます。

オブジェクトに何も変更が加えられなかった場合、チェックインはソース管理履歴に反映されず、オブジェクトの新しいバージョンもソース管理リポジトリに作成されません。

注: チェックインのサイズは 50MB を超えることはできません。

1. **【エクスプローラ】** ページで、チェックインするオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【チェックイン】** を選択します。
3. チェックインに複数のオブジェクトが含まれる場合は、プレビューページの **【ステータス】** カラムで結果を確認します。オブジェクトを除外する場合は、そのオブジェクトの名前の横にあるチェックボックスをオフにします。アクションをキャンセルする場合は、ページを閉じます。
4. 概要を追加し、必要に応じて説明とコミットタグを追加します。
サマリは必須で、最大 255 文字まで入力できます。
5. **【OK】** をクリックします。

オブジェクトの削除

ソース管理オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトを組織とソース管理リポジトリから削除します。

オブジェクトは、先にチェックアウトしないと削除できません。

他のユーザーがチェックアウトしたオブジェクトを削除したり、プロジェクトやフォルダを再帰的に削除することはできません。

1. **【エクスプローラ】** ページで、削除するオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【削除】** を選択します。
3. 組織からのアセットの削除を承諾するには、**【削除】** をクリックします。
4. 削除アクションの理由を記したサマ리를追加します。オプションで説明も追加します。
サマ리는必須で、最大 255 文字まで入力できます。
5. オブジェクトをリポジトリから削除し、削除アクションを完了するには、**【OK】** をクリックします。

以前のバージョンに戻す

オブジェクトに対して加えた変更を破棄する場合は、以前のバージョンに戻すことができます。

以前のバージョンに戻すには、プルアクションを実行し、組織で復元するバージョンを選択します。

プロジェクトまたはフォルダのバージョンを取り消す際、Informatica Intelligent Cloud Services 内のプロジェクトまたはフォルダにリポジトリのプロジェクトまたはフォルダにないオブジェクトが含まれている場合、それらがソース管理されている追加オブジェクトの場合はプルアクションで削除されます。オブジェクトがソース管理されていない場合、このアクションで追加オブジェクトは削除されません。

プルアクションの詳細については、[「ソース管理のプル」 \(ページ 27\)](#)を参照してください。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、オブジェクトは最後にプルされたバージョンに戻ります。オブジェクトのバージョン履歴には、チェックアウトやチェックアウトアクションを取り消した記録は残りません。チェックアウトの取り消しによってロックが解除されるため、オブジェクトはチェックアウトできる状態になります。

1 回のチェックアウトアクションで、個々のオブジェクト、複数のオブジェクト、またはプロジェクトやフォルダのチェックアウトを取り消すことができます。

チェックアウトしたオブジェクトのチェックアウトは取り消すことができます。管理者ロールがあるか、ユーザーロールに管理者サービスのチェックアウトの強制取り消し機能の権限がある場合を除き、別のユーザーがチェックアウトしたオブジェクトのチェックアウトを取り消すことはできません。

プロジェクトまたはフォルダのチェックアウトを取り消す場合、プロジェクトまたはフォルダ内のどのオブジェクトを含めるか除外するかを選択できます。デフォルトでは、すべてのオブジェクトが含まれています。

注: チェックアウト後にオブジェクトが移動されるか名前が変更された場合、チェックアウトを取り消すと、オブジェクトの名前と場所がチェックアウト前の名前と場所にリストアされます。

1. **【エクスプローラ】** ページで、オブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【チェックアウトの取り消し】** を選択します。
3. チェックアウトの取り消しにプロジェクトまたはフォルダが含まれている場合は、プレビューページで、プロジェクトまたはフォルダ内のオブジェクトを選択して、チェックアウトの取り消しアクションから除外します。

オブジェクトのリンク解除

オブジェクトをリンク解除してソース管理の対象から外すことができます。

オブジェクトをリンク解除しても、ソース管理リポジトリや組織からオブジェクトは削除されませんが、組織内のオブジェクトに加えた変更をリポジトリに反映して更新することはできません。後でオブジェクトを再びリンクする場合は、そのオブジェクトをチェックインしてリンクを再作成します。オブジェクトの名前またはパスが変更されていない場合、チェックインしたオブジェクトは、ソース管理リポジトリ内で新しいバージョンのオブジェクトになります。

オブジェクトは、チェックインしないとリンク解除できません。管理者ロールがあるか、ユーザーロールに Administrator サービスのチェックアウトの強制取り消し機能の権限がある場合は、別のユーザーがチェックアウトしたオブジェクトのリンクを解除できます。

ソース管理オブジェクトを含むプロジェクトまたはフォルダをリンク解除することはできません。プロジェクトまたはフォルダをリンク解除するには、プロジェクトまたはフォルダに含まれる各オブジェクトを先にリンク解除する必要があります。

1. **【エクスプローラ】** ページで、リンク解除するオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【リンク解除】** を選択します。

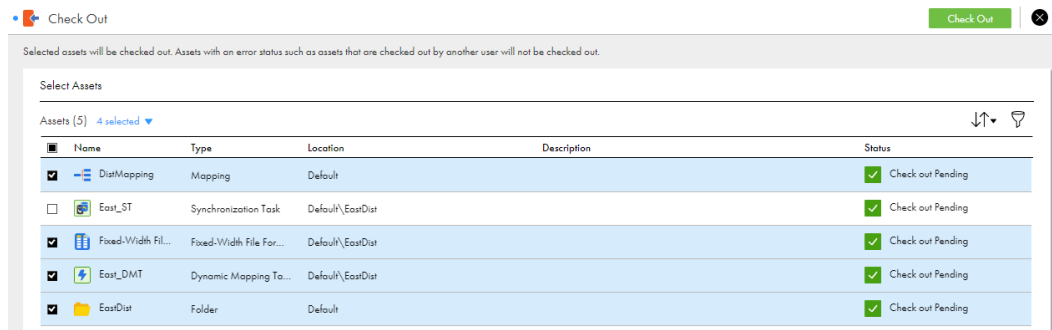
複数のオブジェクトの操作

複数のオブジェクトを選択して、チェックイン、チェックアウト、チェックアウトの取り消し、またはリンク解除を行うことができます。

選択したオブジェクトの合計サイズは 50MB を超えることはできません。

プロジェクトまたはフォルダを選択するか、プロジェクトまたはフォルダ内の複数のオブジェクトを選択できます。ソース管理アクションにプロジェクト、フォルダ、または複数のオブジェクトを含めると、アクションを続行した場合の予想される結果を示すプレビューページが表示されます。プレビューページにリストされたオブジェクトがソース管理されていない場合、そのオブジェクトは無視されます。オブジェクトが他のユーザーによってチェックアウトされている場合、またはオブジェクトを更新する権限がない場合、プレビューページのステータスは、アクションが失敗することを示します。続行する前に、オブジェクトの削除を選択できます。

例えば、デフォルトプロジェクトでは、EastDist フォルダと DistMapping アセットを選択してチェックアウトします。プレビューページには、DistMapping アセット、EastDist フォルダ、および EastDist フォルダ内のすべてのオブジェクトが含まれています。East_ST アセットをチェックアウトしないため、チェックアウトアクションを続行する前にチェックボックスをオフにします。次の図は、プレビューページを示しています。



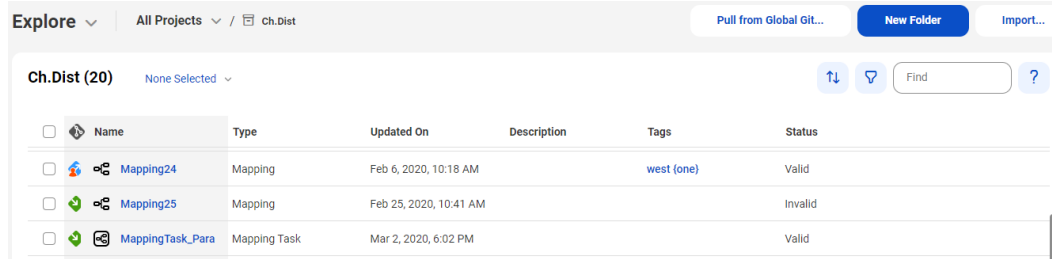
ブルに複数のオブジェクトを選択すると、プレビューページにリポジトリ内のすべてのバージョンが一覧表示されます。

注: 1 つのトランザクションで複数のオブジェクトを削除することはできません。

[エクスプローラ] ページのソース管理カラムの表示

組織にソース管理されているオブジェクトがある場合は、[エクスプローラ] ページに、オブジェクトがチェックイン、チェックアウト、ソース管理対象外のどの状態になっているかを示す追加のカラムが表示されます。

次の図の青と赤のアイコンは、Mapping24 オブジェクトがチェックアウトされていることを示しています。



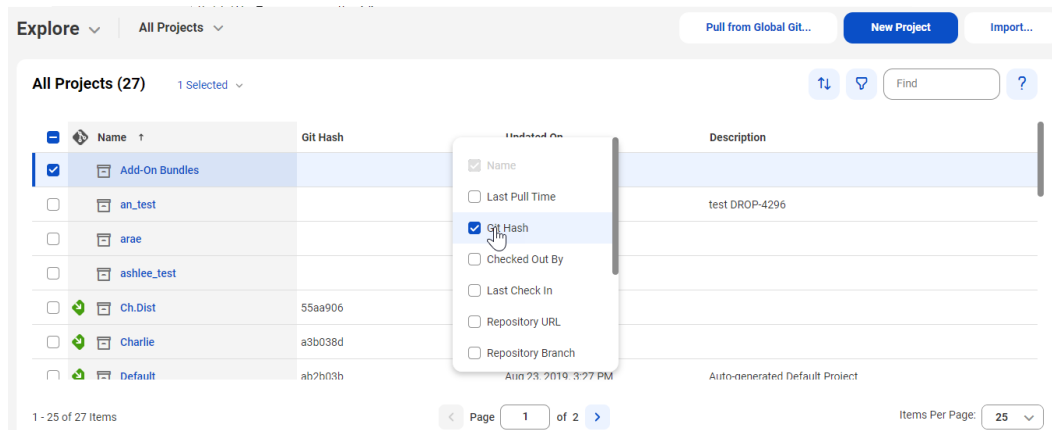
<input type="checkbox"/>	Name	Type	Updated On	Description	Tags	Status
<input type="checkbox"/>	Mapping24	Mapping	Feb 6, 2020, 10:18 AM		west (one)	Valid
<input type="checkbox"/>	Mapping25	Mapping	Feb 25, 2020, 10:41 AM			Invalid
<input type="checkbox"/>	MappingTask_Para	Mapping Task	Mar 2, 2020, 6:02 PM			Valid

ソース管理のカラムを追加で使えますが、デフォルトでは表示されません。ソース管理に関連するすべてのカラムを表示するように [エクスプローラ] ページをカスタマイズすることもできます。これにより、ソース管理オブジェクトを簡単に識別できるうえ、カラムを使用してページ上のソース管理オブジェクトをフィルタまたはソートできます。

次のソース管理関連のカラムを [エクスプローラ] ページに追加できます。

- 最終プル時刻
- チェックアウトしたユーザー
- 前回のチェックイン
- Git のハッシュ
- リポジトリ URL
- リポジトリブランチ

これらのカラムを表示するには、次の図に示すように、カラムの見出しを右クリックし、追加するカラムを選択します。



<input checked="" type="checkbox"/>	Name	Git Hash	Updated On	Description
<input checked="" type="checkbox"/>	Add-On Bundles			
<input type="checkbox"/>	an_test			test DROP-4296
<input type="checkbox"/>	arae			
<input type="checkbox"/>	ashlee_test			
<input type="checkbox"/>	Ch.Dist	55aa906		
<input type="checkbox"/>	Charlie	a3b038d		
<input type="checkbox"/>	Default	ah2b03b		

ソース管理のベストプラクティス

ソース管理を効率的に使用するには、ベストプラクティスとして次のガイドラインを使用してください。

アセットを開発し操作するときは、次のガイドラインに従います。

依存関係の管理に関するガイドライン

依存関係を持つアセットを管理するには、次のガイドラインに従います。

- アセットをリポジトリからプルする前に、接続およびランタイム環境を作成します。
必要な接続およびランタイム環境がターゲット組織内にあるときは、タスクをリポジトリからプルした直後に実行できます。
- マッピングやコンポーネントなどの再利用可能なアセットが、使用前にリポジトリ内にあることを確認します。
Informatica Intelligent Cloud Services は、マッピングタスクなどのアセットが依存するマッピングが組織内にない場合、アセットの保存を許可しません。

アセットのチェックインおよびチェックアウトに関するガイドライン

アセットをチェックインおよびチェックアウトするときは、次のガイドラインに従います。

- アセットの名前を変更または移動する場合は、アセットの第 1 レベルの依存アセットをチェックアウトし、それらを同じチェックインに含めます。
例えば、マッピングタスクが使用するマッピングの名前を変更する必要がある、そのマッピングタスクがタスクフローで使用されている場合は、マッピングとマッピングタスクをチェックアウトします。タスクフローをチェックアウトする必要はありません。マッピングの名前を変更した後に、マッピングとマッピングタスクを 1 回のチェックインアクションでチェックインします。
- アセットのチェックイン時にコメントを入力します。
アセットのチェックイン時に、リリースタグ名を【サマリ】フィールドに入力し、より説明的なコメントを【説明】フィールドに入力することがあります。これを実行すると、Informatica Intelligent Cloud Services の【Git Summary (Git サマリ)】フィールドに、アセットに関連付けられたリリースタグが表示されます。
- 複数のアセットを同時にチェックインするときは、アセット数を 1000 件以下に制限します。
1000 件を超えるアセットを同時にチェックインすると、Informatica Intelligent Cloud Services と Git リポジトリサービスとの間のパフォーマンスが低下する可能性があります。

索引

A

Azure DevOps ユーザー資格情報 [26](#)

B

Bitbucket ユーザー資格情報 [26](#)

C

Cloud アプリケーション統合コミュニティ
URL [5](#)
Cloud 開発者コミュニティ
URL [5](#)

G

GitHub ユーザー資格情報 [26](#)

I

Informatica Intelligent Cloud Services
Web サイト [5](#)
Informatica グローバルカスタマサポート
連絡先情報 [6](#)

W

Web サイト [5](#)

あ

アセット
インポート [20](#), [23](#)
エクスポート [18](#), [19](#)
ソース管理 [24](#)
タグ [11](#)
タグの作成 [12](#)
移行要件 [16](#)
取り込みアセットの管理 [7](#)
組織間の移行 [16](#)
アセットのインポート
概要 [16](#)
要件 [16](#)
アセットのエクスポート
概要 [16](#)
要件 [16](#)
アセット名の競合
インポート [21](#)
アップグレード通知 [6](#)

い

インポート
アセット [20](#)
アセット名の競合 [21](#)
プロジェクト [20](#)
ランタイム環境 [21](#)
依存オブジェクト [17](#)
移行後のタスク [24](#)
接続 [20](#), [21](#)
名前の競合 [20](#)
インポート アセット [23](#)

え

エクスポート
アセット [18](#), [19](#)
エクスポートファイルの構造と内容 [18](#)
プロジェクト [19](#)
依存オブジェクト [17](#)

お

オブジェクトの移行 [16](#)

こ

コピー
タスク [8](#)
フォルダ [8](#)
プロジェクト [8](#)

し

システムステータス [6](#)

す

スケジュール
移行 [17](#)
ステータス
Informatica Intelligent Cloud Services [6](#)

そ

ソース管理
[エクスプローラ] ページのカラム [32](#)
Git コマンド [25](#)
アクション [25](#)
オブジェクトのチェックアウト [29](#)

ソース管理 (続く)

- オブジェクトのチェックイン [29](#)
- オブジェクトのチェックインとチェックアウト [29](#)
- オブジェクトのプル [27](#)
- オブジェクトのリンク解除 [31](#)
- オブジェクトの削除 [30](#)
- サポートされているオブジェクト [24](#)
- サポートされているソース管理システム [24](#)
- チェックアウトの取り消し [30](#)
- プロジェクトとフォルダのプル [27](#)
- プロジェクトレベルのリポジトリ [26](#)
- ベストプラクティス [32](#)
- リポジトリからのオブジェクトのプル [28](#)
- リポジトリのバージョンで組織を更新 [27](#)
- リポジトリへのアクセスの設定 [26](#)
- 以前のバージョンに戻す [30](#)
- 複数のオブジェクトの選択 [31](#)

た

タグ

- インポート [22](#)
- プロパティ [14](#)
- 作成 [12](#)
- 削除 [14](#)
- 取り込みタスクへの追加 [13](#)
- 編集 [14](#)

タスク

- コピー [8](#)
- 移動 [8](#)
- 削除 [10](#)
- 名前の変更 [9](#), [10](#)

ふ

フォルダ

- インポート [23](#)
 - コピー [8](#)
 - 移動 [8](#)
 - 削除 [10](#)
- ### プロジェクト
- インポート [20](#), [23](#)
 - エクスポート [19](#)
 - コピー [8](#)
 - 削除 [10](#)

め

- メンテナンスの停止 [6](#)

ゆ

ユーザー権限

- 取り込みタスクに対する権限の設定 [15](#)

ら

ランタイム環境

- 移行 [17](#)